



菊池南牧村長へパネルを贈呈

南牧村長からは、「カラマツは、新緑も美しく、すばらしいパネルをいただいた。早速、村民にも見てもらえるよう飾りたい。」と各町村長にはパネルの贈呈を大変喜んでいただきました。



新井小海町長へパネルを贈呈

も掲載したい。」

王滝森林鉄道

フェスティバル2013

「木曾ヒノキを載せて走る」

「木曾署」十月六日「王滝森林鉄道フェスティバル2013」が王滝村の松原スポーツ公園で開催され、澄み切った秋晴れの中、鉄道ファンや家族連れが訪れ、復元された林鉄を撮影したり、客車に乗り小さな旅を楽しんでいました。



客車への体験乗車

このフェスティバルは、三十八年前に廃止された森林鉄道の歴史を伝えようと、村内外の有志による「王滝森林鉄道の会」が主催したもので、当公園内に約一キロメートルの線路を整備し、平成十七年に初めて開催、今回が四回目となります。

今回も「運材列車」には、国有林から切り出された樹齢三百年の木曾ヒノキ十六本を二台の台車に満載し、汽笛を響かせながら走ると、線路沿いに陣取った林鉄ファンが盛んにシャッターを切る姿が印象的でした。



運材の実演

運材列車と並行し、客車やミニSLの体験乗車の他モーターカーやタンク車も運行され、整理券を求めの人が朝から列を作り、最終便が運行された午後三時までに約千人の入場者で賑わいました。当会場では、地元の農産物や焼きそばなどの出店もある中、森林管理署コーナーでは中部局で所有する「森林鉄道」や「木曾式運材」のパネルを展示しました。

また、サブイベントとして、王滝国有林に所在する東俣風致探勝林のハイキングが行われ、色づき始めた紅葉の中の森林浴は好評でした。今回は二年後の開催となりますが、国有林で活躍していた森林鉄道が、地元の暮らしにも華々しく貢献していた歴史の中で、このようなイベントには、今後とも連携して取り組み、地域との絆を大切にしたいと考えています。

地域のイベントに参加

「名古屋事務所」暑かった夏も十月になれば…と思いきや、「藤前干潟ふれあいデー」が開催された十月五日は、天候も良く十月とは思えない暑い陽気となりました。



マイ箸づくりの様子

このイベントは、庄内川等の河口に広がる藤前干潟が、ラムサール条約湿地に登録されて以降毎年開催されています。今年も十年目を迎え、会場には三千九百人の方が訪れました。

名古屋市や環境省からなる実行委員会形式で運営される中、中部森林管理局からは「僕の私のマイ箸を作るのだ」と題し、ヒノキの間伐材をカンナで削って箸を作るワークショップを開設。カンナを上手に扱う子も、なかなか上手く削れない子も、完成したマイ箸のヒノキの香りを楽しみ、大事そうに笑顔で持ち帰っていました。



ストラップづくりの様子

また、十月十三日は名古屋事務所のお膝元、「熱田区の区民祭り」が開催されました。

この日も晴天に恵まれ、会場となった白鳥公園には一万九千人の区民が訪れま

した。

中部森林管理局では「サクラの枝を使ったストラップづくり」のコーナーを開設、所長以下名古屋事務所の職員が対応しました。

地域の一員として参加したこの取組は、木材利用のPRを兼ねた取組でもあり、今後もしっかりと継続していくことが必要と感じました。

木造校舎

実大火災実験が行われる

【岐阜署】十月二十日、岐阜県下呂市御厩野（民地）において、木造三階建校舎実大火災実験（建築面積三百十平方メートル・延べ面積八百五十平方メートル）が行われました。

本実験の趣旨は、建築基準法で三階建ての学校については耐火建築物とすることが義務づけられています。公共建築物等における木材利用の促進に関する法律において、建築物における建築材料としての木材利用を促進する観点から、建築基準の規制について、必要な研究の上で見直しを一層推進するよう規定されており、一定の仕様等を満たした場合は準耐火建築物とすることが可能となるよう、実際の建物で火災実験を行い検証するものです。

国土交通省が平成二十三年度から実験を行っており、今回が三回目の実験となり、一階の職員室から出火した設定で、

午前八時に点火して二時間四十分で実験終了となり消火されました。当日は国交省関係者を始め、文科省、地元自治体等も視察に訪れ、林野庁及び中部局からも局長、岐阜署長、飛騨署長等が視察しました。



実験前の木造校舎



実験中の木造校舎

実験結果の責任者からは、「一連の実験で期待した成果は得られ、防火に大きな問題がないことが分かった。」との講評があり、建築基準法の見直しにより、木材の利用促進を期待するものです。



【東濃署 岩村森林事務所】

佐野 鉄夫 首席森林官

岩村森林事務所は岐阜県恵那市の南東に位置する岩村町に所在しています。

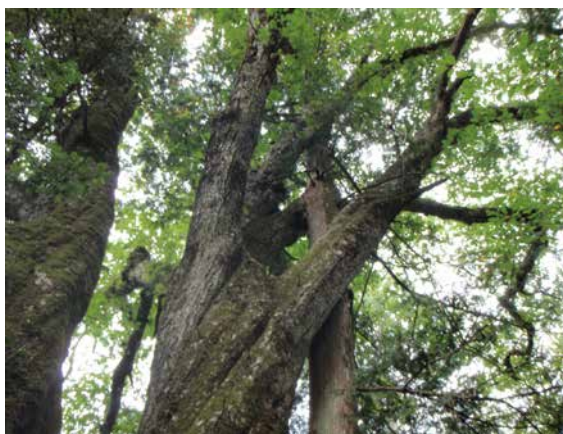


上村恵那国有林を望む

当森林事務所が管轄する国有林野は、国有林五団地（上村恵那 約四千八百八十ヘクタール、岩村 約三百五十八ヘクタール、明智 約七十八ヘクタール、串原 約二百ヘクタール、小里 約二百三十八ヘク

タール)約五千三十ヘクタールと公有林野等官行造林地十二団地(上矢作町一団地、瑞浪市二団地、土岐市三団地、多治見市一団地、御嵩町五団地)約四百二十ヘクタールとなっています。

管内には、史跡指定されている岩村城跡・小里城跡のほかアライダシ自然観察教育林等があり、地域に密接した国有林管理をしています。



アライダシ教育林の「サワラとミズナラの共生木」

「女城主の城」として知られる岩村城は、岩村国有林内にあり、現在は石垣が残るだけですが戦国の山城遺構が良く残っており、奈良県の高取城、岡山県の松山城とともに日本三天山城の一つに数えられ、日本百名城にも選定された名城です。当署では、恵那市と「いわむら郷土の森」の協定を結び、城址を取り巻く貴重な天然林を守りながら環境教育や歴

史散策等の場として多くの方に利用されています。

また、小里城跡は、小里国有林内に本丸跡があり、今年新たに、居館のあった御殿場跡や尾根上の東砦跡の民有地を含め県の史跡指定がされたところです。岩村城跡・小里城跡とも歴史ブームのなか、観光客も多く訪れており、地域からも観光資源として注目されるなかで国有林と地域との連携が一層求められています。

アライダシ自然観察教育林は、上村恵那国有林内にあり、約十ヘクタールにわたってモミ、ツガ、ブナ、ミズナラ等の天然木が多種多様に広がり、美しい森林景観を作り出しています。現在は、レクリエーションの森として遊歩道が整備され、地元町づくり委員会やNPO団体による自然観察会も定期的に開催をされるなど、多くの森林愛好者に利用されています。



請負監督する森林官



当事務所所員で安全懇談会の様子

当事務所の職員は、森林官一名、一般職員一名、森林技術員二名、非常勤職員一名の五名で、生産請負や造林事業など事業実行のほか、この時期の主な業務としては、来年度以降の事業箇所の確認や境界巡検・各種森林調査等の業務にあっています。また、官行造林地のなかで四団地約二百六十ヘクタールが平成二十七年年度末に契約期間満了を迎えることから、スムーズに契約完了となるよう本署とも連携して対応を行っているところです。

およそ十年振りの現場勤務を本年四月以降させていただき、当初は戸惑いもありましたが森林技術員を始め当事務所の職員や多くの方に手助けされながら忙しい日々を送っています。今後とも、地域との連携に留意しつつ、事務所職員全員がともに無事故・無災害で今年度を送りたいと願っています。

人のうごき

中部森林管理局人事

十一月一日付

▽計画課保全部付 一保全課企画係長

下城 広道

▽木曾森林管理署主任森林整備官(森林

ふれあい担当) 一治山課国有林治山係

長 久保 喬之

▽計画保全部治山課国有林治山係長 一森

林整備部付 後藤 弘二

▽計画保全部保全課企画係長 一東信署主

任事務管理官(総務担当) 一

山田 雅子

▽東信森林管理署主任事務管理官(総務

担当) 一木曾署南木曾支署主任事務管

理官(総務担当) 一 佐藤 傑

▽木曾森林管理署南木曾支署主任事務管

理官(総務担当) 一木曾署主任森林整

備官(森林ふれあい担当) 一

山本 通明

行事・会議等の予定

◎木曾地方温帯性針葉樹保護復元取組

第2回検討委員会

12月3日 中部局

◎養成研修(森林官養成科)

12月3～12日 中部局研修所

◎次長等会議

12月12～13日 中部局



◆北竜湖

北竜湖は、飯山市瑞穂に位置し野沢温泉村と接しています。この湖は、火山の爆発でできた窪地に水がたまった自然湖で面積二・四ヘクタールの湖です。江戸時代は水があふれ住民の命を奪った記録もありますが、明治の初めに堤防が築かれ、当時、「北竜池」と呼ばれていました。昭和三十六年に北竜湖観光協会の設立に合わせ、「北竜湖」と改名されました。湖の水は二十四鈔の農地を潤す農業用水として現在も利用しています。



ハート型の北竜湖

この北竜湖の周辺は、小菅部落と呼ばれ、後項に記載します小菅神社の宿坊として修験者で賑わいを見せていた室町時

代、春になると村総出の田植えを行い、若い乙女たちも駆り出されました。田植えが終わると流水より温かい北竜湖で足を洗ったことから早乙女池とも呼ばれていました。池には大きな鯉がいて一人の早乙女に恋をしました。春が過ぎると早乙女はいなくなり、池を探して疲れはてた次の春、早乙女と再会することができました。そんな頃から恋愛成就の湖と語り継がれるようになりました。北竜湖を上空から見るとハート型になっており、湖の東の弁天島に架かる橋「早乙女橋」は恋愛成就の橋として多くの恋人が訪れています。



弁天島から望む北竜湖と妙高山

◆小菅神社

小菅神社は、白鳳年間（六四五～七一〇）に役行者により開山され、大同元年（八〇六）に坂上田村麻呂が八所権現本宮等を整備したと伝わる古社です。

当初は、馬頭観音の化身とされる小菅権現を主祭神と称して熊野・金峯山・白山・立山・山王・走湯・戸隠の七神を祀ったことから八所権現といわれる修験寺院元隆寺です。



重要文化財（国指定）小菅神社奥社

室町時代の最盛期には上の院十六坊、中の院十院、下の院十一院の総数三十七院があり、戸隠、飯綱と並んで北信州三大修験場として広く信仰され大きな影響力を持っていました。戦国時代は上杉領となり上杉氏から庇護されていました。永禄十年の川中島の戦いで武田勢により焼失しました。その後、江戸時代に歴代飯山藩主松平氏により焼失した建物は再建されました。明治時代に入り神仏分離令により元隆寺が廃寺され小菅神社となり現在に至っています。

北竜湖の上部と小菅神社の周囲は国有林です。近年、飯山市において国有林を含め小菅一帯を「重要文化的景観」として申請する動きがあります。当署としては国有林内のカシノナガキイムシ・マツクイムシ被害木の処理等により景観の維持を行い、「重要文化的景観」指定の一助となるよう施業をしています。



スギ並木がすばらしい小菅神社参道

北信州にお越しの節は神秘の北竜湖、歴史ある小菅神社に足を運んでみませんか。近くには映画「阿弥陀堂だより」の撮影場所となった阿弥陀堂、祈願するとお乳が出ると伝わる神戸のイチヨウ、菜の花公園など見所の多い北信州です。

